

(1) 問題の所在

「孤立」(榎井 2009)に悩む子育て中の結婚移住女性は子どものことばを含む成長を支えることが難しい。まず、彼女らが自身のことばを含む問題を乗り越える必要がある。「孤立」の脱却には人的ネットワーク構築が重要であるが、ことばの壁がその邪魔をすることもある。子どものことばを含む成長を支えるために結婚移住女性が人的ネットワークを構築し、自身の問題を乗り越えるには何が必要なのか。

(2) 目的

子どものことばの教育を巡る問題を含む様々な問題解決のために、結婚移住女性が広い社会で自分の日本語に自信を持って人的ネットワークを構築するには、地域日本語教育として私が実践するサークルがどのような課題に取り組むべきかを明らかにする。

(3) 調査と分析

サークル活動記録<KK>(2012年7月9日~2017年5月27日/18回分)とインタビュー<I>(2016年1月15日実施・1時間13分)をデータとし、ハナさんのサークルへの継続的な参加理由を探るために、サークル内外でどのような人的ネットワーク構築をしていたのかを観点に、「定性的コーディング」(佐藤 2008)を援用して分析。

(4) ハナさんの略歴

2003年 自国(漢字圏)の大学(日本語専攻)を卒業。
自国にある日本企業に就職。
2005年 インターネットで日本人の夫と知り合う。
夫とは日本語でコミュニケーションをする。
2009年 結婚し、来日。(以降、2人の子どもを出産)
2012年 サークル初参加。

(5) サークルの概要

参加者: 主に親子(国籍・第一言語などは不問)
活動場所: 東京都内
活動日時: 不定期(月1回程度、1.5~2時間)
活動内容: 主にテーマを巡る対話・料理・絵本の読み聞かせ等

(6) 分析と考察

サークル外

サークル内

【「外国人」というアイデンティティから起こる不安】

- ・自分が外国人だとバレたくない。バレると相手が話さなくなってしまう。(I-1)
- ・日本語の表現が難しく日本人のママ友と一緒に出かける交渉ができない。(I-8)
- ・日本人ママとの会話で日本語での返答の仕方が分からず、会話が続かないことに満足を得られない。(I-9)

【他の参加者への気遣いによる参加度の高まり】

- ・手作りのお菓子を持参してサークルに参加。(KK-2~4)

【自分なりの日本語が受容される安心と地域の人と出会う喜び】

- ・サークルは外国人参加者が前提なため、日本語を話さなくても変な目で見られないから安心。他の人と話せることも参加の理由。(I-3)
- ・サークルに参加する日本人は、外国人が話す日本語に寛容。サークルは最初から外国人とバレているから安心できる場所。(I-4)

(今できていて、今後も取り組むべき課題)

「バラバラになりそうな自己をひきよせ、外と交通していくための力をとりもどす場所」(宮地、2005: 334)に近づくために、参加者同士が多様な自己表現の方法を認め合える空気作りをする。

【言語面及び活動内容面における十全的参加】

- ・サークルだからこそ外国人であることを現せる。(KK-1)
- ・サークルの活動において言葉の問題はなく参加できる。(KK-8)

【ピアとの関係性構築】

- ・サークルで出会ったピアとサークル外でも交流し、互いの状況を確認し合うことで励まされた。(I-5)
- ・サークルで出会ったピアとサークル外で交流し、励まされたり、共感したりしていた。(I-6)

(今後積極的に取り組むべき課題)

社会(個を含む)の問題を他者と知恵を共有して共に考え、解決しようとする「対話」(フレイレ 2011)がサークル内で参加者間で起こるように、そして、その参加者がサークル外でも自分なりの日本語に自信を持って主体的に起こし、人的ネットワークを構築していけるようにスキヤフォールディングをする。

【自分とピアの問題の開示】

- ・サークルで出会ったピアとのトラブルについて語る。(KK-9)

【主宰者との関係性の深化】

- ・問題の開示を通して主宰者との親密度が高まりサークルでの呼称が姓から名に変わる。(KK-11)

ピア: 同等の立場・背景で、喜びや悩みを分かち合い、傾聴し合う者同士

(7) 結論

①多様な自己表現を認め合う場において、子どものことばの発達や言語選択だけではなく夫婦間の問題や仕事探しのことなど、自身に関わる課題をトピックとした「対話」をサークルの活動としてデザインする。②サークル外でもピアを見つけて自分なりの日本語で「対話」しよう!と思えるように、日本語の形式にこだわるのではなく、自身の課題の中身がどうすれば他者に伝わり、共感を得られるのかを考えることの重要性に気づかせる。その上で、「対話」の力を鍛えるデザイン(個々人によって違う)をする。⇒⇒⇒子育て中の結婚移住女性が「孤立」を乗り越え、子どものことばの教育を巡る問題を含む様々な問題を解決することにつながるのではない。